



グループaの様子

- 階段しかない団地は、高齢化が進むと住みづらくなってくる。エレベーターの設置などは管理組合だけでは難しい。長く住み続けられるよう、バリアフリー化などの対策に市も関わりをもってもらいたい。
- 公民館から市民センターに変更となった。教育部局から市長部局となったことを検証すべき。
- 三ツ木や脚折などは、市役所に近接しているのに市政情報が届かない。旧村部の空洞化が始まっている。
- 視覚障害者が住んでいる地域の防災について、市や地域からの情報が入りにくい。避難場所の所在がわからない。

②シティブロモーションについて(参加者14人)

- 空き家対策として、空き家を利用した高齢者の集まる場を。
- つるバス・つるワゴンのコースが度々変わってしまつと、高齢者は使いづらくて困る。自動車教習所や大学などとタイアップし、バスに相乗りするなどはどうか。
- 学校運営と学校教育をきちんと分けるべき。学校運営の考え方として、地域も協力した運営の方法などはどうか。
- 小学生の段階からのボランティアの奨励を議会提案し、行政に進めてもらいたい。
- 文化会館などが地域の活性化につながるのではないか。
- 空き家の現状を市で調査しているのか。開発の一方で空き家が増加し、空洞化が進んでいる。コンパクトシティのまちづくりを推進すべきであり、世界一住み良い街にしていけるべき。
- 農業大学の跡地活用が市の発展につながるのか。いかに将来的な発展につなげるかをきちんと検討を。
- 地域の公園が寂れてきている。公園に置かれてる残土などを片付けてほしい。
- 農業大学校跡地について、上場企業や運動場もさることなが

ら、税金を考えると、人の集まる大型ショッピングモールなどの商業系も良いのではないか。

- 高齢者の免許の返納の推進とそれに代わる公共交通の充実を図るべき。
- まちづくりの計画や進捗状況について、市民に対して情報公開を。

- レインボー協議会を活用した広域的なまちづくりの推進の必要性。
- 地域の活性化に向けて、夢のある施策を。

- 市街化調整区域の開発が乱開発を呼んでいる。地権者任せ、開発業者任せにはならない。
- 観光化に向けて、本市に合ったアイデアを出していくべき。
- 空き家を活用して、地域の中の文化の発信基地に活用を。

グループb  
参加者からの  
主な意見

①公共施設について  
(参加者14人)

- 海洋センターの閉鎖と体育館市内の体育館を残してほしい。
- 学校の統廃合についての議論の状況について知りたい。新聞で公共施設等利用計画での小・中学校の統廃合の記事を読んだ。



グループbの様子

- 子どもたちがたくさんいる魅力あるまちにしなければと思う。若いお母さんが住みたいと思うまちにしてほしい。
- 小・中学校に避難する場合、当該校長の許可が必要ということであった。緊急の場合、どう対応すればよいのか。
- ②小・中学校の教育について(参加者12人)
- 児童・生徒の減少による影響は大きい。統廃合しないと学校そのものが維持できなくなる。議会から統廃合に向けたスケジュールを提案してはどうか。
- スクールカウンセラー、臨床心理士の不足。
- 障害者に関心を持ってもらう教育は、いじめをしないようになる。丁寧な教育をすればわかってくる。
- 鶴ヶ島の教育Ⅱ「生きる力」であるが、不登校が多いのはなぜか。
- 議会は教育委員会に意見を言えないのか。
- 障害者への配慮が必要(手話を教育に取り入れる)。
- 特別支援教育のできる教員の数が少ない。
- 発達障害の児童に身構えてしまふ。
- 護身術についての講習など、自分の身は自分で守るための教

- 統廃合は、市民の生活に大きく関わる。
- 大阪府北部地震で、ブロック塀が倒壊して児童が亡くなった。市内の学校は大丈夫か。
- ドッグランについて要望したい。
- 公園で野良猫に餌を毎夜与えている人がいる。いいことをしているようだが、反面、こんな無責任な行為はいけない。
- 旧庁舎について、障害者や高齢者のための施設として使えないのか。川越市の総合福祉センターのような施設があれば集まれる。
- 若い世代に選ばれるまちづくりを。公共施設にも学校にも、